

# 変わる日本の「暮らし」と「まち」

高校生がおもてなし  
心温まる世代間交流サロン

ひだまりサロン(コンフォール若葉)  
ウエルフェア事業  
(2017年・平成29年)

阿部民子

text by Ranko Abe

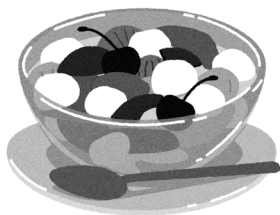


illustration: Shigeyuki Sakata



参加者の笑顔と高校生の笑顔が共に清々しい集い

「いらっしやーいー」  
「お久しぶり、お元気でしたか?」  
真新しく改修された集会所に、  
明るい声が響き渡る。次々と現れ  
る訪問者を笑顔で迎えるのは、  
制服姿の高校生たちだ。

梅雨も終わりに近づいた7月20  
日。東武東上線若葉駅にほど近い  
コンフォール若葉で、筑波大学附  
属坂戸高等学校の生徒による「ひ  
だまりサロン」が開かれた。月に  
1回、第三土曜日に開かれるこの  
サロン、高校生が講師役になって  
お菓子作りや工作、ゲームなどさ

さまざまなイベントを企画・運営。  
コンフォール若葉などの団地や近  
隣に住む方々とふれあう場として、  
既に5年以上続いているという。

当日は、90代を含む8名が参  
加。高校生とともに、ニックネー  
ムを書いた名札を下げた。「もうす  
ぐ夏休みが始まりますが、宿題が  
次々に出て、遊びたいけど大変」  
と高校生が話せば、「おばちゃん  
ね、耳が遠くて、お話するときは大  
きい声でしゃべってくれれば助  
かります」など、全員が自己紹介  
と近況報告。笑い声と拍手で、和

やかに会が始まった。

メニューは「理学療法士による  
体操と白玉フルーツポンチ作  
り」。ペテラン主婦の参加者が手  
早く白玉を丸める様子に、高校生  
が「めっちゃ、速い!」と歓声を  
上げるなど、和気あいあいだ。

鶴ヶ島ケアホームの理学療法  
士、田澤俊亮さんの指導で健康体  
操をした後は、おやつの時間だ。  
高校生たちは、ポツンと一人にな  
っている人はいないか、足りない



ものはないかなど細やかに気を配  
りながら、てきぱきと動き回る。  
手作りの白玉を食べながら、  
「私は女学校に入っつてすぐ戦争が  
始まったから、軍需工場で徹夜で  
働かされて青春がなかったのよ」

との参加者の話に、高校生が熱心  
に耳を傾けている。話題は尽きず、  
盛り上がったまま約2時間の会は  
終了。「楽しかった」「白玉、おい  
しかったよ」という参加者を、高  
校生たちが弾ける笑顔で見送った。

## 参加者みんなで楽しむサロン

「この『ひだまりサロン』は、高  
校の『福祉から見た生活』という  
授業で、地域社会の課題改善の一  
環として始まったと、先生から聞  
きました。それ以来、ボランティア  
Aの取り組みとして、また、一緒  
に作り上げていく姿勢が代々受け  
継がれています」と説明してくれ  
たのは、代表を務める高校3年生  
のあーちゃんだ。将来の夢は看護  
師。地域に入って何かをすること  
で自分も成長したいと、2年生の  
4月から参加しているという。

「参加なさる方がどうすれば楽し  
んでくださるかを考えて企画を立  
てるんですけど、終わったときに  
『楽しかったよ』『ありがとう』っ  
て笑顔で言ってくれるのがすく  
うれしくて、この活動の原動力に  
なっています」

えみなちゃんは「ボランティア

をやっているというより、自分た  
ちがやりたいことを一緒に楽しん  
でいる感じです。ここに参加し  
て、保育系だった進路を福祉系に  
変えました」と話す。

小学校の先生になりたい、とい  
うまりなちゃんは「先生になった  
とき、ここでの経験を活かして話  
ができれば、子どもたちも温かい  
目で高齢者の方を見ることができ  
るかなと思います」。理学療法士  
を目指しているそらちゃんは「去  
年、人生ゲームをやったんですけ  
ど、ゲームをやりながら高齢者の  
方の人生をお聞きして、すごいな  
って。ボランティアをすること  
で、クラスメートと違うつながり  
ができたのもうれしい」と話して  
くれた。

高校の総合学科で福祉を学んで  
いるという彼女たち。現在のメン  
バーは話を聞いた3年生4人と2  
年生8人の12人。全員が心から楽  
しんで参加しているのが、言葉か  
ら、そして満面の笑顔から伝わ  
ってくる。

「同じ高校で同じ福祉を学び、同  
じ価値観や考えを持っているから  
こそ、できるんじゃないかなと思

っています」とのえみなちゃんの  
言葉に、全員が大きくうなずいた。

## ミクストコミュニティの理想形

サロンに参加していた山崎幸子  
さんは「来年80歳になりますが、  
周りの人とは挨拶程度しかしない  
し、この6階に住んで見晴しも  
いいから、外に出たくなくなっ  
ちやって……これは怖いことだと思  
ってね。今は孫のような子たちと  
おしゃべりできて、第三土曜日が  
とても楽しみなの」と話す。

「ひだまりサロン」の活動をバツ  
クアップしているのは、鶴ヶ島市  
と鶴ヶ島市社会福祉協議会、コン  
フォール若葉を管理するUR都市  
機構だ。三者は協定を結び、UR  
は鶴ヶ島市社会福祉協議会の認定  
団体に無償で場所を提供。「ひだ  
まりサロン」にも、2017年か  
らコンフォール若葉の集会所を提  
供している。

鶴ヶ島市社会福祉協議会の北堀  
尚美さんは「高校生らしい感性で  
新鮮な企画を考えてくれて、参加  
者も増えています。誰でも自由に  
参加できますし、『今までこうい  
う接点がなかったから、夜眠れな

いくらい楽しかった」との高齢者  
の声もお聞きし、すごく意義があ  
ることだと思いました」と語る。

高校生たちを娘のように見守る  
UR埼玉エリア経営部の井村淳は  
「URでは、少子高齢化対策の一  
環として各地でウエルフェアの取  
り組みを進めており、その一つの  
柱であるミクストコミュニティ  
形成のために、ここでは集会所使  
用のスキーム作り、地域を広く巻  
き込むコーディネートを行ってき  
ました。理想とするのは、立ち  
上げのお手伝いをして、最終的に  
は自立して地域に根付いていく  
形。ここでは高校生が主体になっ  
て自立している、まさに理想形で  
す。人格形成が進む一番多感な時  
期に、こういう活動に取り組んで  
いる姿はすばらしいですね」と目を  
細める。

味見させていた  
だいた白玉は、ふ  
んわりと優しい味。  
参加した人誰もが  
優しく温かな気持  
ちになれる、すて  
きなサロンだ。

街に、ルネッサンス

UR 都市機構

一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

【企画制作】新潮社